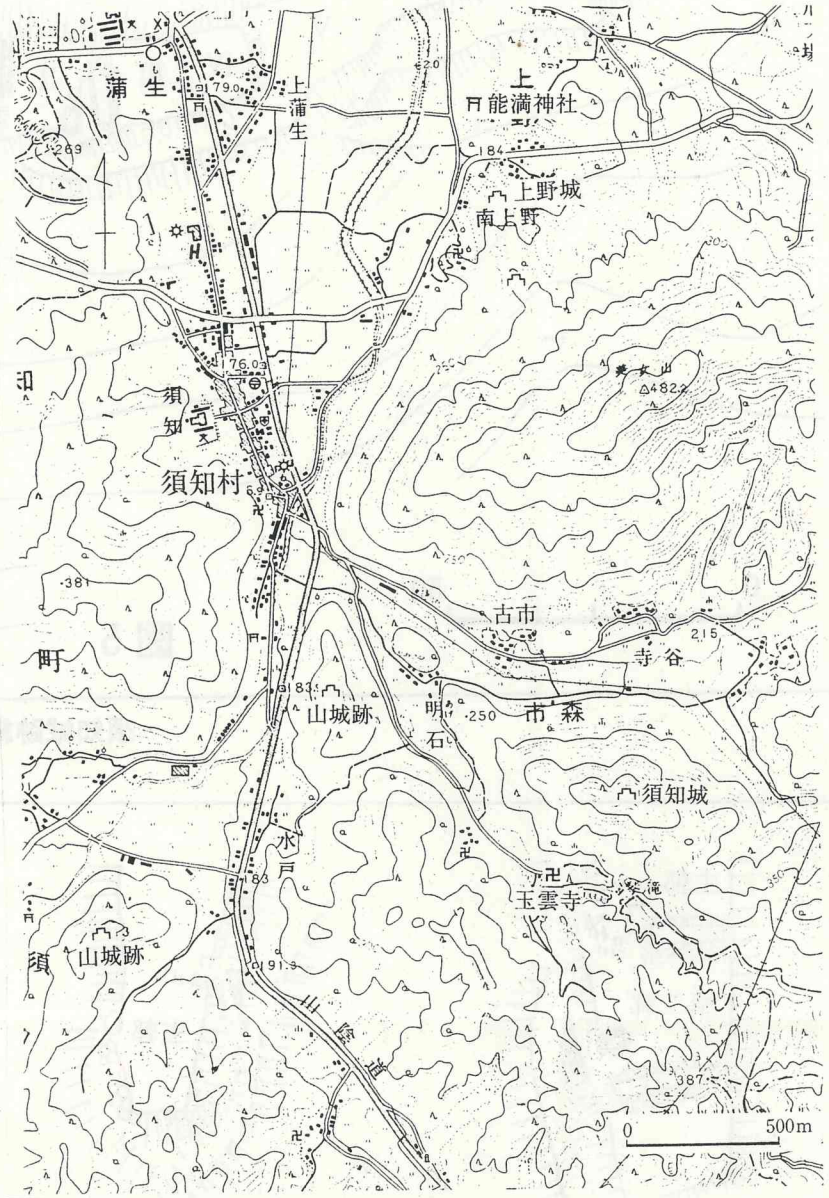


図2 須知城下要図



須知要図

図1

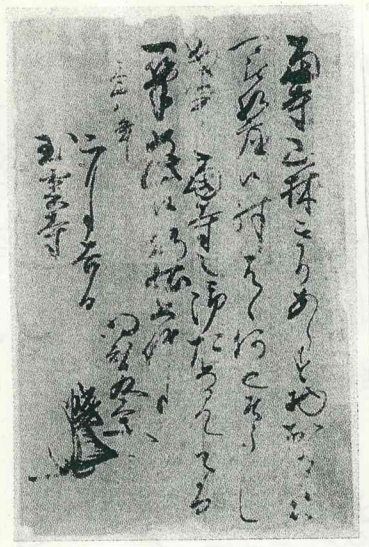
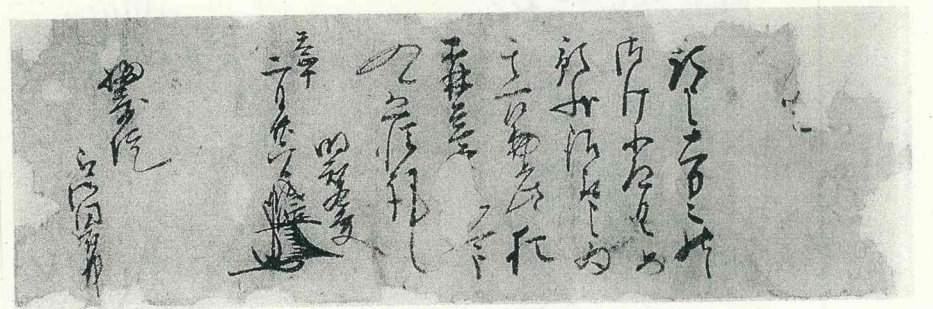


図4



明智九大夫書状『古文書集』1001-3 天正10年(1582)

図3

明智九大夫書状『古文書集』一〇〇一三

天正一〇年(一五八二)
(一四・九×四五・三)

愛宕山福寿院に預けていた鬘斗付太刀と小道具を預状とともに受取ったことを伝えた文書である。同時代の人物として「須智九大夫」(『思文閣墨跡資料目録』六〇)がおり、明智名字が付与された人物であろう。須智氏は、丹波船井郡の国衆である。

〔釈文〕

以上

預申候大刀之のし

つけ・小道具、如

預状請取申候、為

其一筆如此候、猶

森定□□可申

入候、恐惶謹言

天正十 明智九大夫

二月廿六日 成信(花押)

福寿院

参 御同宿中

明智九大夫判物『玉雲寺文書』

天正八年(一五八〇)
(三〇・二×一九・〇)

丹波船井郡市森(京丹波町)の玉雲寺に所蔵されている明智九大夫の判物である。市森には、明智時代に改修された須知城跡、城下集落「古市」が残っている。九大夫は、もともとは地元の国衆須智氏と考えられ、光秀から明智名字を与えられたと思われる。本史料は、玉雲寺に対する山林伐採、掃除に関する判物である。前文書と花押の一致が注目される。

〔釈文〕

当寺山林きりあらず物、於有之者、

可被□座候、殊二者々何もそうし

成事、当寺之御ために候間、

一筆如此候、仍状如件、

天正八年 明智九大夫

二月吉日 成□(花押)

玉雲寺

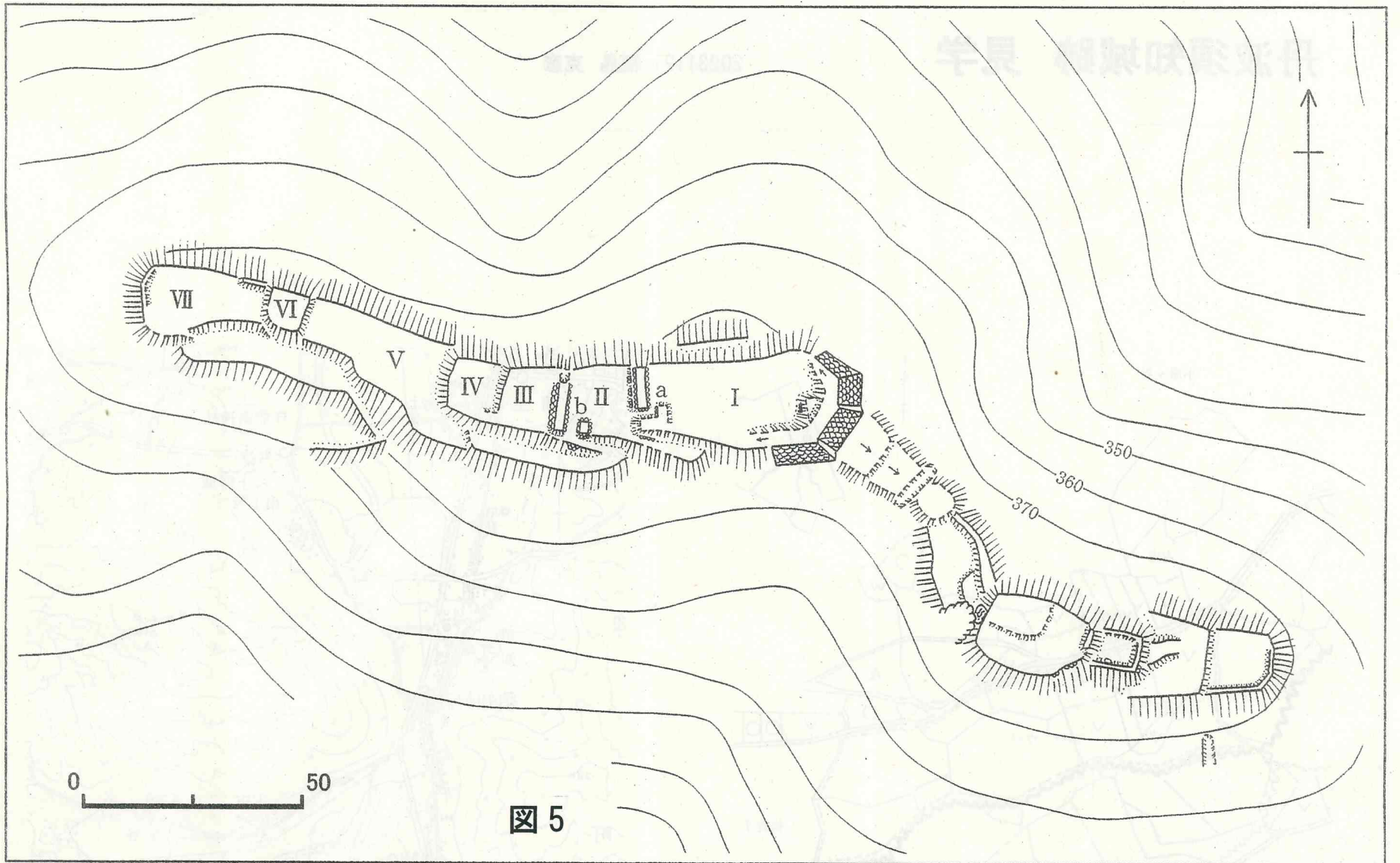


図5

須知城跡縄張り図 (福島克彦調査・作図)

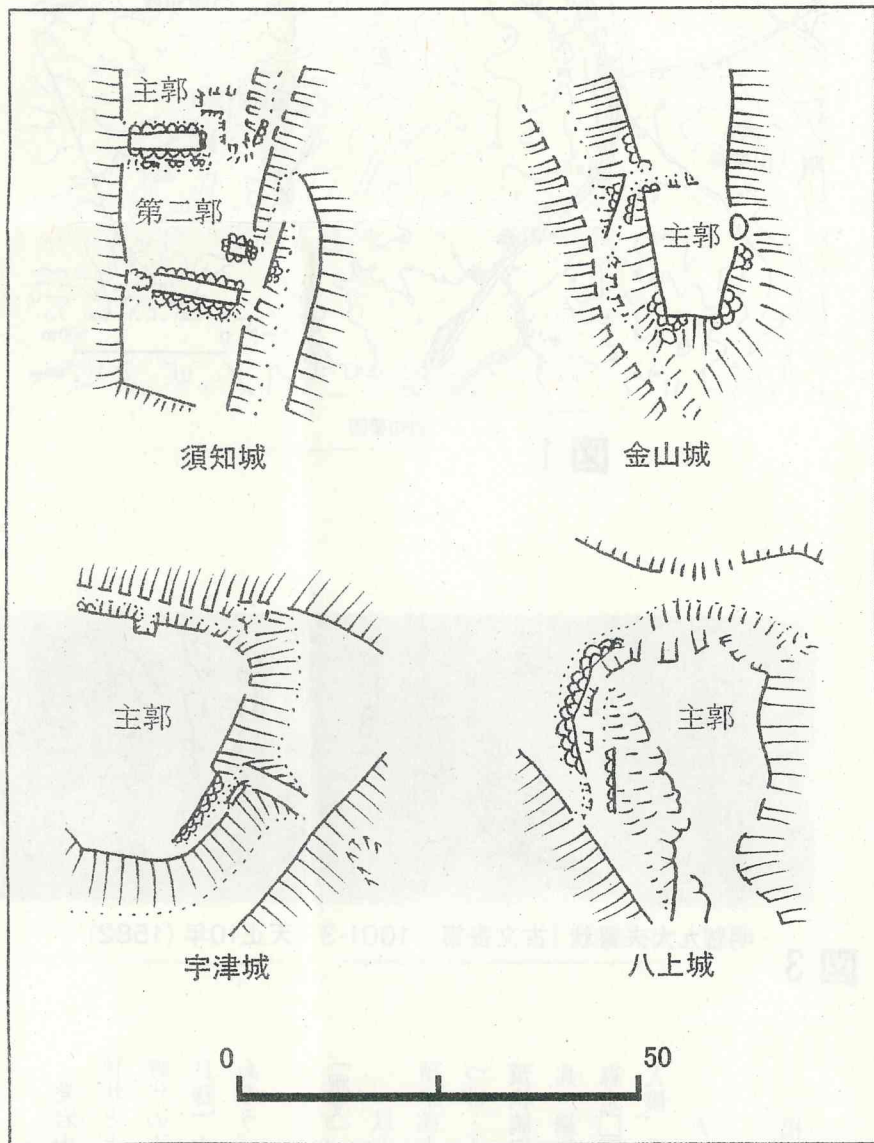


図7 スロープ状の城道

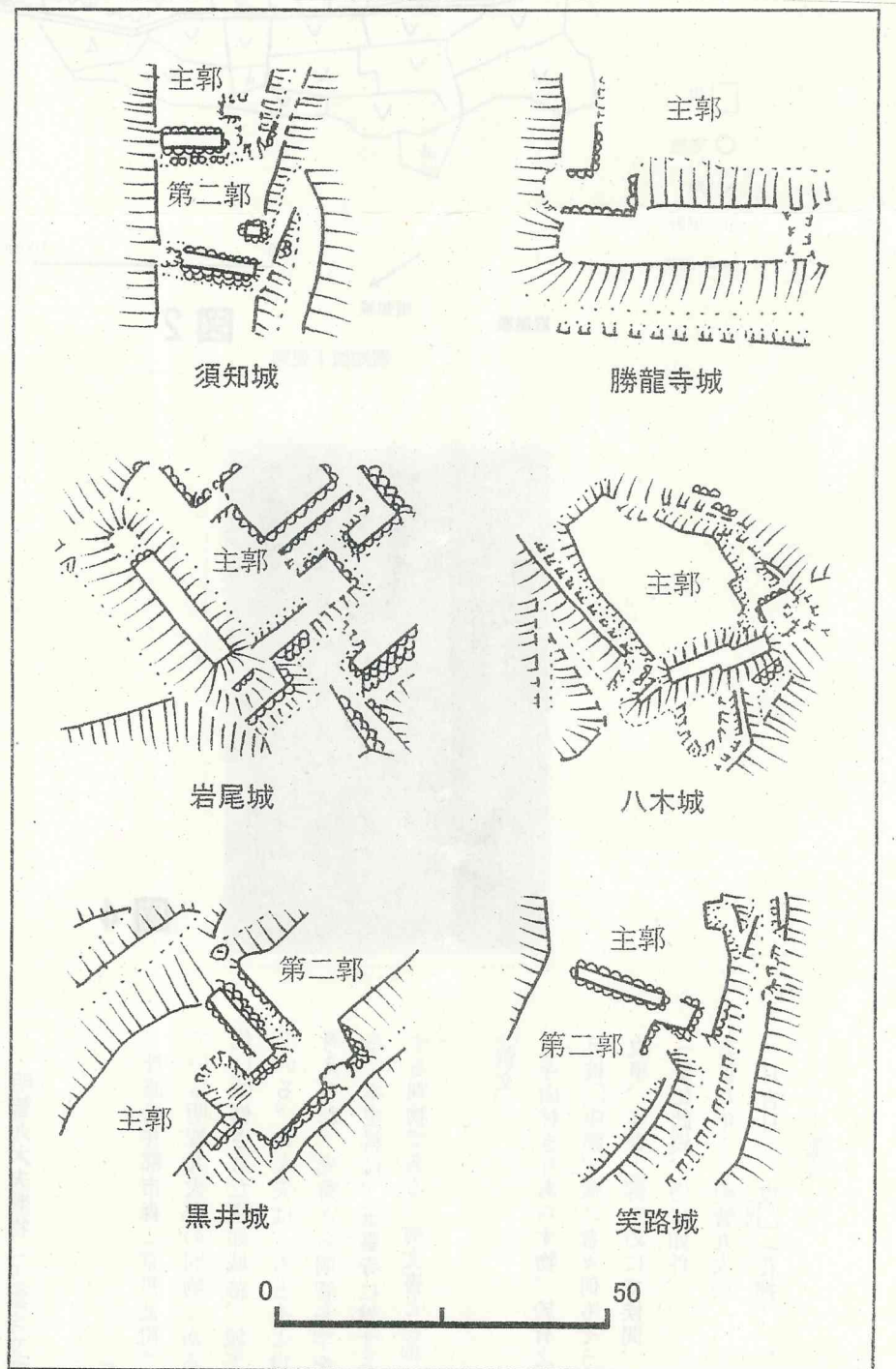


図6 一文字状土塁